

戦国のムラ 城井谷

20日は鎮房、21日は朝房の命日。宇都宮氏ゆかりの茶碗で抹茶を。

宇都宮鎮房、朝房を偲ぶ献茶式

春の茶会



4月20日(日) 10時～ 献茶、茶席 ※席は当日先着順/全て椅子席

会場 **旧藏内邸** 参加費1,000円 ※入場料込 (抹茶席 / 菓子付)

- 定員54名 *前売券は旧藏内邸で販売 (3/13(木)9時30分より)
- 築上町上深野396番地 ☎0930-52-2530
- 平服でお気軽にご参加ください。
- 主催 築上町教育委員会
- 協力 築上町文化協会茶道部



最後の中世武士団 豊前宇都宮氏400年の故郷“城井谷”

ふるさと きいだに

■豊前宇都宮氏のふるさと「城井谷」

豊前宇都宮氏の初代信房は、源頼朝の平家追討で活躍し、建久3年（1192）、豊前国に入部しました。当初は木井馬場（みやこ町）を本拠地とし、のち「城井谷」伝法寺庄（築上町）に移りました。そして一族も豊前各地に土着化し、城井一族として繁栄しました。

戦国時代、豊前宇都宮氏は豊臣秀吉の九州島津攻めに参加し活躍しましたが、旧領地を失い、これを不服として豊臣、黒田氏に対し武装蜂起しました。岩丸山の峯合戦では黒田長政の軍勢を撃退しましたが、その後、猿尾の陣から黒田・吉川軍に本拠地、大平城を攻められ劣勢となり、和睦を受け入れました。しかし天正16年（1588）4月20日、当主鎮房は中津城で、翌21日、嫡男朝房も肥後で謀殺され、400年間続いた豊前宇都宮氏の歴史は幕を閉じました。

黒田氏との合戦時に豊前宇都宮一族が籠城したと伝えられるのが、城井ノ上城址です。周囲を岩壁に囲まれた狭い谷地形で、まさに秘境です。江戸時代の元禄7年（1694）、福岡藩の儒学者、貝原益軒はここを訪れ、「城井（豊前宇都宮氏）が敵をのがれて盾（たて）籠（こもる）所なり。入口は両方に大石ありて門のごとし」と『豊国紀行』に記しています。



宇都宮信房肖像画（部分）



神楽城址（みやこ町木井馬場）



求菩提山 大平城址

鎮房が拠点とした大平城址（寒田）



一族が籠城した城井ノ上城址（寒田）

■豊前宇都宮氏の菩提寺「天徳寺」

天徳寺は、正慶年間（1332）豊前宇都宮氏五代頼房が開きました。鎌倉時代の木造釈迦如来像や、後冷泉天皇から下賜された金銅「三足蟻香炉」は家宝です。墓所には戦国時代に滅亡した長甫、鎮房、朝房三代の墓石や室町時代の石塔が並び、当時を偲ばせます。春には麓の大だれ桜と山寺の景色で親しまれています。



天徳寺の墓所



釈迦如来像



宇都宮鎮房肖像画（部分）と三足蟻香炉（天徳寺所蔵）



■宇都宮鎮房の人物像

石井進著『中世武士団』の冒頭では「鎮房は（中略）正直で無骨な気性の持ち主である。六尺ゆたかの長身（約180cm）、肩も胸もあつく、臂力（腕力）にかけてはならぶものない偉丈夫、打物としては万夫の勇ありといわれた猛将」と、記録に残る鎮房像をわかりやすくまとめています。

鎮房を謀殺した黒田氏が江戸時代に編纂させた『黒田家譜』には「（鎮房は）武勇人にすくれ（優れ）、力量つよくて、人数多くしたかへ・・・」と記され、鎮房の人心を集め、武勇に優れた性格が窺えます。

また、昭和19年から20年まで新聞掲載された大佛次郎著の小説『乞食大将』では、豊前の地に根を張り400年、時の権力者から領地を奪われそうにながらも最後まで頑強に抵抗し続け、最終的に謀略により殺害された鎮房の純粋な戦国武将としての勇猛果敢な姿が描かれます。

■藏内家と豊前宇都宮氏

藏内氏は豊前宇都宮氏家臣の末裔で、『城井軍記実録』（町指定文化財）には「藏内若狭守」と記されます。江戸時代に帰農し、深野村の庄屋を務めました。

大正8年（1919）に鎮房公・長甫公・朝房公三百年忌が天徳寺で執行された際は、藏内次郎作が総裁を、保房が顧問を務めたと記録されます。



藏内次郎作



藏内保房